

徳富蘇峰の肉聲を聴く

土屋 博

徳富蘇峰（一八六三年生、一九五七年没）の肉聲を聴くは小生にとりて永年の夢なりき。（小生、拙文「徳富蘇峰の主要著作について」を、以前「文語の苑」會報に連載し、文語の苑ホームページの「日々廊」にも上架したる處なればなり。）此度其の夢を遂に實現することを得たれば、ここに紹介せむ。偶々ユーチューブにて「徳富蘇峰」を検索したる處、以下をNHKラジオアーカイブスに發見す。以前検索したる折りには無ければ、比較的最近に上架せられたるものと見ゆ。上架せられたるは、昭和二十八年（一九五三年）六月五日日比谷公會堂に於ける徳富蘇峰の「近世日本國民史百冊記念講演會」の録音なり。（數年前に四回に分けて昭和史研究家保坂正康氏の解説付きにて放送せられたるラジオ番組と見受けたり。） <https://www.youtube.com/watch?v=HmPKUmXZNlg>

聴きたる印象は以下の如し。徳富蘇峰は當時九十歳の高齢なれど、年齢を感じさせぬ頭脳明晰振り、遺憾無く發揮せられ、高齢化社會を生くる我々の模範とするに足る。また、氣力の充實せる語り口は獨得のものにて、きつき熊本辯も微笑ましく、聴衆の反應頗る良し。百巻にも及ぶ大著のエッセンスを、本人の口より直に聴くは愉し。後世に残すべき深き教訓を含むものと言はざるべからず。以下に講演内容の骨子を記す。

- ・神武天皇は日向より大和においてにならるるに際し、戦さをさるるは極めて少なく、やむを得ぬ場合のみに限られ、結婚政略など妥協に妥協を重ねられたり。
 - ・明治維新においても然り、妥協行はる。ことに西郷隆盛は「日本一の妥協屋」なりき。長州征伐に際し西郷は馬關海峡を「三途の川」と申せり。江戸城明け渡しも幕府側の妥協屋勝海舟と官軍側妥協屋西郷との出會ひなり。日本の歴史といふものは大概は妥協なり。
 - ・西郷の江戸城に乗り込みたる際、西郷は帯刀の儘進むを失禮とし、刀を両手に捧げつつ奥に進まれたり。この話は山縣有朋公より直接聞きたる話なれば、ここにお傳へする。
 - ・日本に於いては、神と人は殆ど同じことにて、人間も立派なる人は神に祀らる。東郷元帥、乃木大将もまた然り。我々日本人も皆神様になり得る資格を持つて居る。
 - ・聖徳太子は日本の恩人なり。初めて皇室中心といふ根本を打ち樹てられ、實に十七條憲法をつくられて國民的精神を軌道に乗せられたり。
 - ・輕井澤は外國人ウエストンの發明なり。外國人の尻馬に乗るは日本人の特色なり。
- 外國のあとを追ひ負けまいとして負けぬ様になり五大國の一員となれど、太平洋戦争にては走り過ぎ、自分の力によりて倒れたり。（西洋人の力の爲に倒れたるには非ず。）

（註）NHKラジオアーカイブスには、澁澤榮一（大正十二年「道德經濟合一説」及び昭和三年「ご大禮に際して迎ふる休戦記念日」。いづれも澁澤史料館販賣のCDに同じ。）、高橋是清（昭和十年「政經濟について」）らの貴重なる録音の数々もあり、いづれも貴重なる人類の共有財産と覺ゆ。

（令和二年七月十六日受附）